

錦が丘

2020年(令和2年)4月7日発行
明石市立錦が丘小学校
学校だより No. 1 4月号

しあわせ 一自己肯定感と自己分析一

校長 渡 信雄

春爛漫。錦が丘の桜や中庭の鉢植えチューリップ(新2年生の丹精)・花壇の花たちは、進級・入学した錦っ子を寿ぐ(ことほぐ)かのようにです。

明日、56名の新入生を迎え、令和2年度のチーム錦が丘がスタートします。新型コロナウイルス感染症の影響で、今後の見通しが不透明な中、本校は関係各機関との連携の下で、その予防策を講じながら、充実した教育活動を推進していく所存です。保護者の皆様、地域の皆様には、これまで同様のご支援とご協力を賜りましたら幸甚です。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、見出しに挙げた自己肯定感と自己分析について、お話しします。

まずは、自己肯定感です。子どもだけではなく、人は皆、自分のことが大事にされていると実感できる環境でこそ、意欲が高まり前向きな考えをもって頑張ることができます。この、自己肯定感を高めるために必要なことについて、歌手やエッセイスト、教育学博士として活躍するアグネス・チャンさんが、以下のようなことをお話されています。

『一番重要なのは、他人と比べないこと。「もう〇歳なのにまだあれができない、これができない、お兄ちゃんはできたのに、隣の～ちゃんはできるのに・・・」等。子どもは自分のペースで育っているのです。だからよいこともそうでないことも全部受け止めて愛してあげる。悪いことをしたとき、否定するのはその行為だけ。子どもは否定しない。これができれば子どもの自己肯定力は育つと思います』

アグネスさんの3人の息子さんは、アメリカの名門スタンフォード大学に入学されています。その子育ての中での実感を込めて、上述のことをお話しされています。丸ごとの自分を受け止めてもらえたと実感できた時、人は安心し、礎を形成し、その大きな愛情を背に自分の一步を踏めるのだと、私も確信します。

次は、自己分析です。人は自分のことを客観的にみることが不得意です。ややもすると、自分のネガティブな面は認めたくないのです。しかし、できることはできるし、できないことはできないのです。そしてそれは、現時点で仕方のないことであり、事実です。漫画家のわたなべぼんさんは、その著書「やめてみた」や「ダメな自分を認めたら部屋がキレイになりました」などの中で、様々な葛藤を経る中で、自分のネガティブな部分に気づき、それを認め改めることで、どんどん心が軽くなり前向きになり、心も周りの環境もすっきりしたということを描かれています。自分のネガティブな面を認めること。これは初め、苦しいかもしれませんが、でも、先にも書きましたように、できるできないは事実です。人は地球のようなもので、高い山もあれば短い川もあるのです。事実です。そして、それを認めることが、物事がうまくいくことにつながります。物事がうまくいくこと。このことこそがしあわせだと思ひます。

錦っ子には、しあわせになってほしいです。ここにお話しした、自己肯定感と自己分析はセットだと思ひます。今年度はこの2つに注力して取り組んでいきます。よろしくお願ひいたします。